

小情報共有 3枚 (非管理メモ)

宮原班、NLSA班 ← プレス対応チーム

東京電力株式会社

プラント状況 (本店レク) 議事メモ

日時：平成 23 年 7 月 8 日 (金) 11:00~11:30

場所：東京電力本館 3 階大会議室

先方：記者約 30 名 (カメラ 3 台)

当方：原子力・立地本部

原子力設備管理部

広報部

配布資料：

- ・ 福島第一原子力発電所プラント関連パラメータ (7月8日6時現在)
- ・ 集中廃棄物処理施設周辺 サブドレン水核種分析結果 (7月8日)
- ・ 4号機周辺路盤整備に伴うケーブル移設工事の実施

よりプラント状況、配付資料に関して説明。

質疑：

Q. 福島第二原子力発電所 1 号機電源盤から火花が発生した件で、残留熱除去系の系統は何系統あるのか。

A. 3 系統ある。熱交換器を系統内に有しているのは A、B の 2 系統あり、C 系統については熱交換器を有しておらず低圧注水系である。

Q. 福島第一原子力発電所 3 号機タービン建屋地下に溜まった高濃度汚染水により足にベータ線熱傷を受けた作業員が亡くなったという噂がネット上で流れている件で、今回事実関係を公表した経緯は。

A. こういった情報がネット上で流れることで放射線医学総合研究所及び当社への問い合わせが数多く寄せられたため、事実無根であることを改めて周知させていただいたもの。

Q. 東京電力にはどの程度問い合わせがあったのか。

A. そのような問い合わせが何件かあったが、数については把握していない。

Q. クインスによる 2 号機原子炉建屋入域作業は既に始まっているのか。

A. 本日 10 時 34 分より入域作業を開始している。西側非常扉から北東階段を上り 2 階北西階段付近でダストサンプリングを行い、その後可能であれば 3 階へ上る予定。ロボットのみによる 2 階への入域は今回が初めてとなる。

Q. 本日 15 時頃より 3 号機入域調査を行うとのことだが、その際の作業員の数は。また遮へい対策は何を行うのか。

A. 高所作業車による現場確認は当社 2 名、バックボットの操作者は協力企業の作業員

2名、当社1名、その他応援要員として当社3名、合計で8名を予定している。作業実績に関しては分かり次第、本日夕方の会見でご紹介させていただく。なお、遮へい対策としては、高所作業車の作業台に鉛毛マットを取り付けることを予定している。

Q. 福島第二原子力発電所1号機電源盤から火花が発生した件で、電源盤の端子台が塩分で劣化している可能性があるとのことだが、電源関係が水に浸かって劣化する可能性については他の同様箇所でも起こりうると思うが、現在検討している再発防止対策は。

A. 基本的には点検後に使用することになっている。福島第一原子力発電所1～4号機は既設の電源盤は地震発生後全て使用できず、仮設電源を使用している。5, 6号機については、絶縁抵抗測定により問題ないことを確認した上で使用している。福島第二原子力発電所については津波で浸水している箇所は交換しており、点検後使用している。今回、電源盤そのものは冠水していないが、床面に海水が進入したことで空調機が停止状況であり、当該箇所に塩分が付着した可能性があると考えている。今後の対策としては、負荷の無いところは通電しない、あるいはサーモグラフィによる発熱箇所の有無の確認等を実施していきたい。

Q. 今回発生した発火場所の点検が漏れていた理由は。

A. 点検が漏れていた訳ではないが、外観点検のみ実施しており内部点検は未実施であった。

Q. 今回の発火の件を受けて、今後は内部点検も実施していく予定なのか。

A. その通り。

Q. 循環注水冷却を開始して1週間以上経過したが、現時点での総括と今後の課題は。また、いくつかトラブルがあったが、トラブルの数と傾向は。水処理システムの配管等の耐震補強対策はどうか。

A. 現時点で循環注水冷却はほぼ安定的に運用できていると考えている。ろ過水からの補給無しで水処理システムの処理水だけで運用できているので、高濃度の汚染水がどんどん増えている状況ではない。

引き続き全長4kmのホースについて点検を実施してまいりたい。

稼働率は80%程度なので、ベッセル取替基準の確立や処理能力50m<sup>3</sup>/hに対して処理量が43m<sup>3</sup>/h程度であることなどを課題として認識しているため解決する必要があると考えている。なお、システム上としては安定して運用できているものと考えている。

初期トラブルの件数は集約していない。

水処理システムの建屋内の設備の耐震クラスはBクラスで、ホース類は一般の使用であるが、地震で大きく揺れても吸収するのではないかと考えており、ホース等の中に入っている水は10<sup>1</sup>や10<sup>0</sup>なので、高濃度の汚染水が大きな範囲に漏出するリスクは低いと思っている。

Q. 現状の稼働率で処理を進めた場合、1から4号機タービン建屋の床面が見えるのはいつ頃か。

A. 現時点でそのようなシミュレーションはしていないが、8月中旬頃に目標としている O.P. 3,000 に到達するのではないかと考えている。水位が下がってきても、一樣に水位が下がる訳ではなく、建屋の仕切りや壁等により、一部のエリアは水位が下がれば水が抜けるエリアはあるのではと思っているが、水位の状況を見ながら建屋の状況を確認する必要があると考えている。

Q. 3号機窒素封入の準備作業の本日の作業の計画線量と確認する場所はどこか。また、画像や動画を撮影する予定はあるのか。雰囲気線量が 50mSv/h であった場所を再度見るのか。接続作業は早ければいつか。

A. 計画線量は 10mSv。作業予定内容としては、目標地点が床面から 5m の所にあるため、高所作業車の作業台から、上部のグレーチングに乗り移り、目標としている配管のキャップを目視で確認する予定で、作業時間は 10 分間程度。

作業状況はバックボットで様子を見ながら監視する予定。

雰囲気線量等については、作業員の被ばく線量等で確認するが、本日測定するかは聞いていない。

画像については、作業上必要な箇所は撮影するかと思うが、線量が高いため特別に撮影することは難しいと思う。

接続工事の予定は本日の現場の状況をふまえて検討する予定。

Q. クインスの今後の使用の可能性は。

A. 今回の様に階段を自力で上り下りできれば、これまで人間が高線量で行けなかった箇所の確認が可能となる。さらに、アーム等があるので、外観点検の他にも操作が可能であると考えている。以前、クインスを使用して 2 号機原子炉建屋に水位計を設置する作業を試みていたが、不具合箇所の修理が完了しており、今後の作業予定については検討中である。

Q. 2号機原子炉建屋 2 階と 3 階の入城は人も含めて初めてか。

A. 作業員は 2 階に入城しているが、ロボットで上層階に行くのは初めてである。現時点で 2 階にどの程度のダストがあるかを確認するもの。新たに格納容器から漏えいしているもので放射性物質が増えているのか、もともと炉心が損傷した際に放出された放射性物質が建屋内に溜まって巻き上がっているものがあるのかを評価したいと考えている。

Q. 2号機原子炉建屋 2 階 3 階における今後の予定は。

A. 今回はダストサンプリングが目的である。ダストサンプリングは 2 階を予定しており、3 階は目視の点検をする予定。

Q. 今後、ダスト濃度が低ければ何か作業しないのか。

A. 今後、原子炉水位計と圧力計校正作業があり、格納容器の圧力計校正作業は 2 階で実施する予定だが、現時点で配管接続作業等の大きな作業は予定していない。

以上